

## 2023年春闘 賃金水準にこだわった要求を！

### — 新年のごあいさつ —



執行委員長 杉原孝一



新年明けましておめでとうございます。

2023年の新春を、健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中は、JAM甲信の諸活動に対して、ひとかたならぬ御支援、御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。本年も引き続き宜しくお願い申し上げます。

本年は『卯（うさぎ）年』です。卯は穏やかで温厚な性質であることから、「家内安全」また、その跳躍する姿から「飛躍」、「向上」を象徴するものとして親しまれています。株式市場においては、【辰巳天井、午尻下がり、未辛抱、申酉騒ぐ、戌笑い、亥固まる、子は繁栄、丑つまずき、寅千里を走る、卯跳ねる。】という格言があります。

卯には跳ねる特徴があるため、景気が上向きに跳ねる、回復すると言われており、株式市場にとっては縁起の良い年として言われているようです。今年は縁起の良い干支で有ることから、景気回復を願い、本年がこの格言にあるような素晴らしい一年になることを願うばかりです。

昨年を振り返ってみますと、新型コロナウイルス感染症は、感染拡大から約3年が経過し、感染対策と経済活動の両立を目指した取り組みが各所で進められていますが、いまだ感染の終息には至っていません。また、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻が今もって終結せず、民間人への被害等が続き、経済活動にも大きな影響をもたらしています。為替については大幅に円安方向に振れ、昨年10月には一時150円台まで達しました。その結果、原材料や食料品を輸入に頼っている日本においては多くの物が値上がりし、近年にない物価上昇となりました。また、企業業績においても円安の影響は顕著であり、輸出関連企業では利益が出ているものの、多くの中小企業では厳しい環境となっているのが実情です。

そのような中、昨年の2022年春季生活闘争は、交渉にあたられた皆さんが頑張っている組合員の事を思い「人への投資」と月例賃金にこだわり粘り強い交渉をされた結果、多くの単組において2015年闘争以来、高い賃上げを実現することが出来ました。2023年春季生活闘争は厳しい環境になると思われませんが、共に働く仲間の為にも、ゆとり・豊かさのある生活ができる賃金水準にこだわると共に、実質生活の維持も加味した要求に皆さんで取り組んで参りましょう。

政治に目を向けますと、本年は統一地方選挙が行われます。共に働く仲間、労働者が安心して働くことができる環境を構築していくためにも、村田享子参議院議員や連合とも連携しながら、政策制度課題の実現に向け、運動を進めていきたいと思っておりますので、皆様のご理解とご協力を頂きますようお願い致します。

組合員の思いが集まればそれだけ大きな力となり、職場課題の解決に向けた大きな一歩となります。私たち執行委員、各地区協議会幹事、書記局が「ONEチーム」として、職場の皆さんとのコミュニケーションを大切に、日常の世話役活動を通じて、安心・安全で働き甲斐・やり甲斐のある環境を皆様と共に築いていきたいと思います。

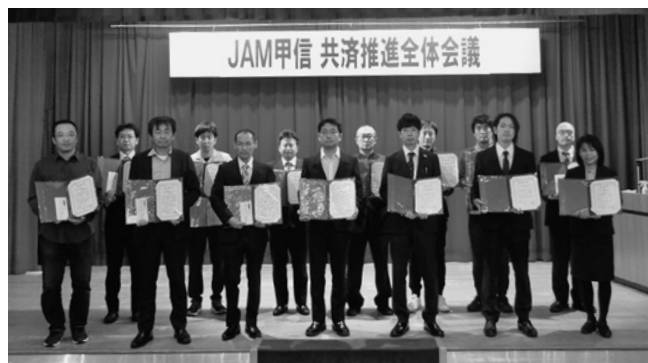
結びに、2023年においても皆様からのご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、今年一年が、皆様にとって、明るく希望に満ちた年になりますよう、共に頑張ることを誓いまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

JAM甲信は、2022年11月5日(土)、岡谷市のライフプラザマリオで単組代表者と共済の事務担当者など51単組・支部90名を集め、JAM甲信・共済推進全体会議を開催した。自家共済・提携共済ともに昨年度の活動報告と2023年度の活動方針が提案され、全会一致で承認がされた。

第1部の全体会議でJAM甲信共済推進委員会の杉原推進委員長は、「近年では自然災害の発生頻度も高まっており、今年も台風や豪雨に見舞われた地域もある。そのようなリスクに備え、JAM共済の推進・加入について、単組で一層の取り組みをお願いしたい」と挨拶した。次に櫻井事務局長よりJAM共済の加入・給付の状況について説明がされた。

第2部の分科会においては、提携共済推進委員会では、昨年のキャンペーンの表彰を行うと共に、マイカー共済の団体割引率の見直しによる推進を中心

としたキャンペーンと、単組役員の保障点検を展開して、更なる保障の充実を図っていくことが確認された。また、自家共済推進委員会においては、紹介キャンペーン・新入社員へのアプローチの項目を新設し、共済活動の更なる展開を図っていくことが確認された。



昨年度のキャンペーン表彰単組(提携共済分科会)

JAM甲信は、新型コロナウイルス感染防止策として参加人数の上限を30名に設定した上で、2023年度の単組役員研修会 I、II を、岡谷市のライフプラザマリオにおいて開催した。

第1回目は2022年10月1日(土)に「組合役員の心構えと賃金について」と題して開催し、14単組・支部から28名が参加した。前段の「単組役員の任務と心構え」では小林組織部長が講師を務め、労働組合



ソーシャルディスタンスで聴講する参加者(第2回研修会より)

の意義と労働三法、組合活動の3本柱、執行部役員の任務について説明をし、後段の「賃金について」では櫻井書記長が講師を務め、賃金の定義と意義、平均賃上げ要求と個別賃金要求の違いの他、春闘交渉における要求の作り方について説明した。参加者からは「単組役員の心構えについて、基礎的な内容を知ることができて良かった」「単組のリーダーとして頑張っていきたい」などの感想があった。

第2回目は「経営分析のすすめ」と題して同年11月12日(土)に開催し、14単組・支部から24名が参加した。櫻井書記長が講師を務め、企業の財務状況を平時より把握しておく重要性を説いた。研修会では財務諸表の見方を説明し、ある企業の財務諸表を題材にどのような経営状態にあるのか?を参加者それぞれが分析し、個別の分析結果を発表しあった。

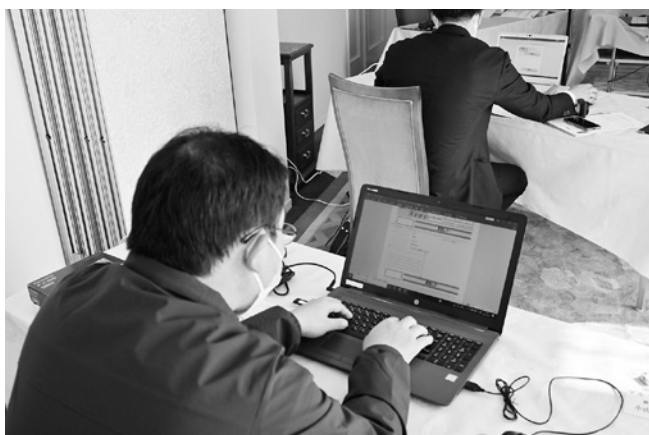
単組役員研修会IIの参加者からは「経営分析は会社状況を把握する上で学習しなければならないと理解した」「財務諸表の見方がよく分かったので良かった」などの感想が寄せられた。

JAM甲信ホームページにも最新情報満載!

<https://www.jamkoushin.com>

JAM甲信は、2022年11月12日(土)、岡谷市のライフプラザマリオにおいて、広報担当者を中心に2単組2名を集め、広報セミナーを開催した。

本セミナーは初級編であり、午前中は講師である小林組織部長から写真の撮り方、文章の書き方とその見出しの作り方、取材の仕方や構成に至るまでの、広報紙制作の基本的手法が説明された。講義で



広報紙制作に取り組むセミナー受講者

は、「強調したいことを記事の初めに据える逆三角形の記述を心がけよう」、「基本となる5W1Hでは、特に主語と述語の、『誰が』『どうした』を意識して記事を書いてみよう」など、構成を考えて文章を書く重要性が説かれた。その後、合同演習として5W1Hに沿った文章の構成を全員で体験した。

午後は、2つのテーマを基に受講者それぞれが広報紙を作成した。1つ目は、自身が受講した「JAM甲信広報セミナー」、2つ目は別フロアで同時開催していた「単組役員研修会Ⅱ・経営分析のすすめ」とし、実際に取材も体験した。取材では、最初は戸惑う様子も見られたが、講師や参加者へのインタビューを行い、研修会の様子を記事にした。

受講者からは「今回学んだことを今後の広報紙作成に活かしたい」「取材から記事作成までを通して演習できたので良かった」などの感想が寄せられた。

JAM甲信は、2022年11月19日(土)岡谷市のライフプラザマリオにおいて、5単組6名が参加して、第5回個別賃金研修会を開催した。

講師を務めた佐野副書記長は「春闘における平均賃金要求方式では配分については会社任せになっていて、『もらってみたいと分からない』というケースが多い。また、平均賃金要求方式では平均賃金水準を示すのみであるため、例えば賃金カーブに中だるみの賃金実態がある場合、その部分を是正するのは難しい。従って従業員1人ひとりの賃金が分かる個別賃金の取り組みは必要である」と説いた。

その後、賃金分析プログラムの使用方法について説明を行ない、参加者それぞれが自単組のデータを用いて、賃金プロット図を作成した。参加者は本研修会で初めてプログラムに触れることもあり、最初は操作に戸惑う様子も見られたが、演習が進むにつれて、年度ごとや人数規模などでの比較も行えるよ

うになった。

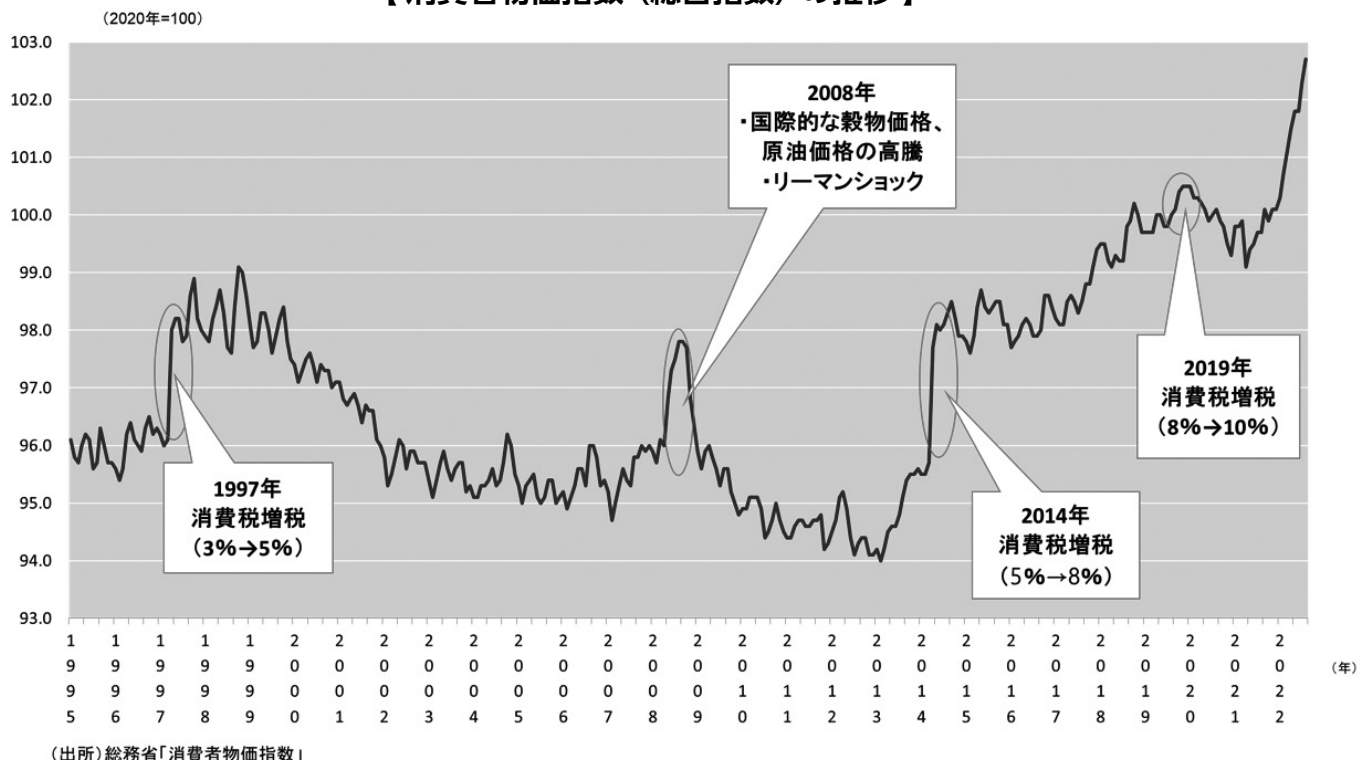
参加者からは「賃金分析プログラムの使用方法を理解できたので良かった」、「今後の春闘において賃金分析プログラムを活用していきたい」、「実際に賃金分析をしてみると、男女間の賃金格差があることが分かった。個別賃金の手法を用いて、是正を進めたい」などの感想が寄せられた。



個別賃金に取り組む重要性を学ぶ参加者

# 40年ぶりの物価上昇 今こそ行動を! JAM『価格転嫁緊急対策本部』を設置

## 【消費者物価指数（総合指数）の推移】



(JAM春季生活闘争中央討論集会 (2022.12.4) 資料より抜粋)

2022年10月度の消費者物価指数（総合指数）は前年同月比で3.7%増であり、40年ぶりの大幅な物価上昇となっています。一方、名目賃金は2014年以降緩やかに上昇しているものの物価上昇に追いついていません。また、実質賃金は7カ月連続減、10月は2.6%減となっており、7年4か月ぶりの下落幅となっています。

JAMは、11月16日、安河内会長を本部長とする「価格転嫁緊急対策本部」を設置しました。価格転嫁を凶らなければ、企業収益の維持はおろか存続すら危ぶまれる他、賃上げの原資を確保することも出来ません。正に「まったなし」の状況であり、今こそ行動を起こさなければなりません。

JAM甲信では2023年春闘の取り組みと併せて、価格転嫁実現に向けた取り組みとして、「企業状況と取引の実態に関する調査」の実施、「価値を認めあう社会へ」の労使研修会の開催を予定していますので、全単組のご理解・ご協力をお願い致します。

## 秋の叙勲 津田弥太郎さんに旭日重光章

JAM参与で元参議院議員の津田弥太郎さん（茅野市在住）が、令和4年秋の叙勲で「旭日重光章」を受章されました。

JAM組織内議員として2004年から2期12年にわたり参議院議員を務め、JAM内外の働く者の代弁者として縦横無尽に活躍をされた、津田さんの栄えあるご受章をお祝いし、心よりお慶び申し上げます。

津田さんは参議院議員任期中の雇用調整助成金の改善の取り組みの他、JAM運動の発展にも多大なご尽力をされました。

JAM甲信としてはこの吉報を受け、ご訪問の上、お祝いの生花などをお届けしました。



現役時代の津田弥太郎さん